

[別紙①]

第2学年 特別活動 学習指導略案

1 主 題 SNS の特性について知り、お互いを尊重する使い方を学ぼう

2 資 料 名 「あなたならどうする」
(兵庫県中学生用 인권教育資料『きらめき』令和5年度版)

3 ね ら い

- ・ インターネット上の誹謗中傷や不適切な投稿等に気付き、通報機能などの対処方法を知り、実際に技能面で対処できるようになる。
- ・ SNS 等インターネット上の方が、現実の生活よりもいじめや誹謗中傷を引き起こしやすい要因を考え、軽率な行動により自分が加害者になることや、他者を傷つける可能性があることをおさえ、自他を尊重する態度を育む。
- ・ 「正義感」から「良いことをしている」と感じていることが、ときには他者を攻撃し、人権を侵害していることに気付かせ、インターネットとの上手な関わり方を考える。

4 人権教育の内容 人間関係の活性化3－(2)－ア

5 展 開

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 普段の生活と SNS について考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 普段の生活では SNS をどのよう に使っている？ </div> <p>○ 具体的に普段の生活でどのような使い方をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友人との連絡手段として使う。 ・ 動画などを投稿する。 ・ 友人の投稿を見たり、コメントしたりする。 ・ 芸能人、インフルエンサーの投稿を見たり、コメントをしたりする。 	<p>○ 具体的なアプリ名などをあげ、生徒の実態に迫る。</p> <p>○ スマートフォンなどの機器を所有していない生徒もいることを想定しておく。</p>
2 事例について考える。 ・ それぞれの事例に対して、問題点の有無、及びその理由について考え、ワークシートに記入する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①～⑥の SNS の使い方について、問題点があるかどうか、まずは自分で考えてみよう。 </div>	<p>○ 考えをまとめきれていない生徒が多い場合は、事例から直接的にわかること、推測した上で考えられることを挙げる。</p>
3 グループで共有する。 ・ 2～3人のグループになり、それぞれの意見を述べ、他の生徒の意見を聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> それぞれの事例について、グループで話し合ってみよう。 </div>	<p>○ グループ討議の様子を観察し、討議がうまく進行できていないグループには適宜支援を行う。</p>

<p>4 クラスで共有し、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1つの事例に対して、指名された2～3グループが話し合いの結果を発表する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①～⑥のそれぞれの事例に問題はあるだろうか？問題があるとするならば、何が問題なのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの事例についての予想される反応。 ① クラスメイトの卒業アルバムを写真に撮ってSNSで投稿した。 <ul style="list-style-type: none"> 校章や制服が映っているのが問題。学校がわかる。 勝手に人の写真を投稿することはいけないことだ。 まわりの人の名前が映っていることが問題だ。 知り合い（友だち）限定の投稿なら問題ないと思う。 鍵アカ（鍵付きアカウント）なら大丈夫。 隣の生徒の名前から推測できる。 ② 【拡散希望】と書かれた投稿を見た。 <ul style="list-style-type: none"> 情報を拡散すること自体が間違っている。 本当に犯人かわからない。 情報に確証がない。 決めつけている。 人の顔を許可なく載せている。 犯人を知らせる必要がある。 拡散する意味がないからしない。 ③ 迷惑行為をしている投稿を見て、コメントで批判した。 <ul style="list-style-type: none"> 個人情報を勝手に特定していることがそもそも問題。 むやみに正義感をもつと危ない。 巻き込まれるようなことをしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれのグループの発表内容を聞き、短くまとめ、クラスで共有しやすいように整理する。また、必要に応じて問い返しをする。 ○ 個人情報の流出につながる危険があり、個人の特定からストーカー被害に発展する可能性があることをおさえる。 ○ 個人情報に関わることは投稿しない。 ○ 投稿する必要があるときは、「相手の了解を得る」「ぼかしを入れる」などの対応をとることが重要であることをおさえ、被害が出た場合には通報機能などの対処方法があることを指導者が把握しておく。 ○ 悪ふざけや誰かを傷つける投稿がなくなるのはなぜかを考えさせる。 ○ 結果として「さらす」行為につながる恐れがあることをおさえる。（肖像権の侵害等の対象になる可能性） ○ 興味本位で再投稿（拡散）することは、人権侵害を助長することにつながることをおさえる。 ○ 誤った情報を拡散することは、投稿者に加担する行為であり、取り返しがつかないことにつながることに気付かせる。 ○ 一度の投稿で、その後膨大な人の目に触れてしまうことが人権侵害につながることに気付かせる。（肖像権の侵害等の対象になる可能性） ○ 迷惑行為等の投稿に対して、批判するコメントを投稿することが正しいことではないことをおさえる。（侮辱罪等の対象になる可能性） ○ 「正義感」から批判することが誹謗中傷につながることに気付かせる。
---	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰かがコメントしていたら、自分もしてしまうかもしれない。 ・ 自分なら見るだけで済ませる。 <p>④ 「SNSで悪口を書くのはやめなよ」と親友から言われたが、身に覚えがない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アカウントが乗っ取られているかもしれない。 ・ 自分の言葉で無意識に人を傷つけているかもしれない。 ・ 誰かがなりすましをしているかもしれない。 ・ 自分も被害にあったことがある。 ・ 親や先生に相談する。 ・ 登録している友だちに知らせる。 <p>⑤ 友だちとオンラインゲームで会う約束をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間はずれはだめだ。 ・ いじめではないのか。 ・ 相手の事情を確認していないことが問題だ。 ・ 陰口を言っている。 ・ 悪口があったら止める。 ・ みんなで集まれる日を考え直す。 <p>⑥ SNSで親身になってくれた相談相手から「会おう」と言われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あやしいもの」をもらおうとしているのは問題。 ・ サプリなんかを信じてはいけない。 ・ そもそも知らない人とは会わない。 ・ 文字でのやりとりだけでは、どんな人か分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アカウントの乗っ取りの可能性を考えさせ、その危険性についておさえる。 ○ アカウントが乗っ取られた場合でも、アカウントの元の持ち主は特定できるため、被害者から訴えられた場合、自分自身にも被害が及ぶ危険性があることをおさえる。(名誉毀損罪等の対象になる可能性) <p>○ 見えない空間であることからのいじめに発展しやすいことに気付かせる。また、課金トラブルなどにつながることをおさえる。(課金による高額請求があった場合の相談先・・・消費者ホットライン☎188)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 参加できなかった生徒の立場だけでなく、断られた生徒の立場からも考えさせる。 ○ どのような相手かわからないため、様々な危険があることを考えさせる。 ○ 誘拐・殺人・性被害・つきまとい(ストーカー被害)など(ストーカー規制法に抵触する可能性) ○ 違法薬物を勧められる、商品を勧められるなど、様々な問題があることを想像させる。(覚せい剤取締法・大麻取締法・あへん法・麻薬及び向精神薬取締法等に抵触する可能性)
--	--	---

5 どのように行動すべきかもう一度考えてみよう。

①から⑥のようなとき、本来どのように行動すべきだったかを考えてみよう。

○ それぞれの事例についての予想される反応。

<①の事例>

- ・ そもそも個人情報を投稿しない。
- ・ 知り合い（友だち）限定の投稿や鍵アカ（鍵付きアカウント）でも見た人が拡散する場合もあるので安易に投稿しない。
- ・ 友だちに確認せずに写真などを投稿しない。

<②の事例>

- ・ 無視する。いちいち反応しない。
- ・ 匿名の投稿であっても投稿者が分かるので、無責任な投稿はしない。
- ・ インターネット上には不確かな情報もあるので、拡散しない。
- ・ 情報の真偽が不確かなものにふりまわされない。

<③の事例>

- ・ 無視する。いちいち反応しない。
- ・ 面白がって拡散しない。
- ・ コメントで批判するのではなく、投稿内容を削除するように言う。
- ・ コメントするときには自由に書き込むのではなく、読んだ相手がどう思うのかをまず考える。
- ・ 投稿や動画内の内容が間違っている場合は、通報機能を使う。

<④の事例>

- ・ パスワードを変える。
- ・ 信頼できる大人に相談する。
- ・ IDやパスワードに、名前や誕生日など予想できそうなものを入れない。
- ・ 個人情報は絶対に教えない。
- ・ リアル（直接話をする）でのやりとりを大切にする。

○ 次の補助発問を適宜使いながら、考えるように促す。

<補助発問>

- ・ 写真を投稿した人はどんな気持ちで投稿したのだろう。
- ・ 不適切な投稿を見つけたらどうしたらいいだろう。

<補助発問>

- ・ コメントで批判した人は、どのような思いから投稿したのだろう。

<補助発問>

- ・ 批判された人はどのような気持ちになるだろう。
- ・ 批判をされた人の気持ちに寄り添うにはどうしたらいいだろう。

<補助発問>

- ・ アカウントを乗っ取られないためにできることは何だろう。
- ・ インターネット上の情報に振り回されないためにどうしたらいいだろう。
- ・ 自分が避けられたらどう思うだろう。

	<p><⑤の事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなことで仲間はずれにしない。 ・ みんなができる日に約束をする。 ・ みんながそろわない前提です。できる人であれば良い。 ・ 参加できなかった理由を聞く。 ・ ひとにはそれぞれ事情があることを理解する。 ・ 相手の立場で考えて、仲間はずれにしようとしている友だちを止める。 ・ いじめを見つけたら大人に相談する。 <p><⑥の事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS で知り合った人とは会わない。実際に会ったことのない人とは会わない。信用しない。 ・ どうしても会わなければならないときも一人で会わない。 ・ インターネットや SNS で個人的な相談はしない。 	<p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインゲームでいじめを見つけたらどうしたらいいだろう。 ・ どうしたら仲良く楽しむことができるだろう。 <p><補助発問></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット上での情報に嘘はないだろうか。 ・ なぜ、インターネット上で知り合った人を信じたり頼りにしたりしてしまうのだろう。
<p>6 自分を守り他者も傷つけないようにするためにできることを考える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>インターネットや SNS を使うとき、自分を守り他者も傷つけないためにあなた自身ができることを考えよう。</p> </div> <p>○ 予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉に気を付ける。 ・ 見えない人を信じない。 ・ 発言をするときにはしっかり確認をする。 ・ 自分の言葉で傷つく人がいないかを確認する。 ・ 先のことを考えて行動する。 ・ 相手の気持ちを考える。 ・ 困ったことがあったら信頼できる大人に相談する。 ・ インターネット上の情報を安易に信じない。 ・ のめりこみすぎない。適度に利用する。 ・ インターネット上にある危険を知っておく。 ・ 情報活用の正しい知識を身に付ける。情報の安全性について真偽を確かめる方法を知っておく。 	<p>○ 軽率な行動が自分を加害者にしてしまうことや、他者を傷つける可能性があることをおさえ、インターネット等を利用する際にどのような行動をとるべきか考えさせる。</p> <p>○ 法務省の人権相談や通報機能（通報先）や相談窓口を確認し、適切な対処方法しておく。</p> <p>○ ネットの匿名性などから、現実よりもいじめが悪質になることや誹謗中傷を引き起こしやすいことに気付かせる。</p> <p>○ 結果的に「さらす」行為になってはいけない。そのためにもどのように行動すべきかを考えさせる。</p>

	<ul style="list-style-type: none">• 「正義」といわれることが本当に正しいことか、相手を傷つけることになっていないかを考える。• 他者を煽るようなことは、インターネットやSNSにおいても、現実社会においても決してしない。	
--	--	--